

小・中学生の部 講評

自由部門 (選考委員：高橋和代氏)

自由部門には、八十五点の応募がありました。自由部門は、白川静博士や漢字をテーマに自由な発想で創作した作品を、考えたことや工夫した点などの解説を添えて応募するものです。漢字に親しむ方法が、こんなにたくさんあることを「自由部門」に出品された作品が教えてくれました。毛筆の書の内容、創作漢字、絵漢字、漢字新聞、歴史書、歌詞、双六、そしてタブレットを用いた作品まで、実に多種多様な漢字の親しみ方と親しんでもらうための工夫や方法があるのだと感心しました。どの作品も独創性にあふれていました。そして、作品に共通していたのは楽しみながらこだわって作っているということでした。これからも漢字の謎を解き、楽しんで学んでいくて下さい。次年度、この自由部門にどのような創意工夫にあふれた作品が出品されるのか、とても楽しみです。

漢字川柳部門 (選考委員：高間春彦氏)

漢字川柳部門には、二百十八点の応募がありました。川柳は、漢字の成り立ちに関するものというところで、応募用紙には、参考文献も含めて成り立ちを書くらなければなりません。なので、小・中学生の皆さんは、成り立ちを調べたうえで、それを五・七・五の川柳に表しました。今回の入選作品には、表意文字である漢字と作者との深い対話を感じられます。そして、それをつづの情景としていきいきと描かれています。来年もそういった作品に出会えるのが楽しみです。

漢字作文部門 (選考委員：宇下奈都氏)

漢字作文部門には、六十九点の応募がありました。漢字にちなんだ四百字までの自由作文の募集でした。応募作品全般としては、みなさんじめで、漢字について興味を持ってよく調べているのが伝わってきました。とても前向きで健やかな作文が多かった印象です。また、自分のまわりのことや体験等と漢字を上手に結び付けていて、感心しました。

小・中学生の部 優秀賞 自由部門

(講評：高橋和代氏)

「厚」の意味

福井県 福井市羽生小学校六年

富田 朋奈さん



Q厚の意味って何？ 	ヒント 祝るのは、お酒
	ヒント 「厚」の意味と関係がある
	答えは・・・
！クイズ！ 厚の意味とはなんでしょう？	先祖に対してお酒を祀っている様子です
ヒント 何かを祀る物	その様子が「あついで」事から「厚」という漢字なんだそうです

講評 富田朋奈さんの作品は「厚」の漢字の意味をタブレットを用いて紹介していくものです。クイズ形式で解いていくのでワクワクします。導かれるようにヒントを読み、それが新たな知識になっていきます。動きもあり、挿絵も分かりやすいので、漢字を楽しんで学べると思います。新しい挑戦と工夫がされた作品です。

ぼくの名前

福井県 県立嶺南東特別支援学校五年 中島 玲樹さん



講評 中島玲樹さんの作品は、名前の一字である「十」を、書写の時間に初めて毛筆で表現したものでした。白川文字では、「中」は軍の大將がいる中軍の旗を表します。はたたく旗を、しなる曲線と元気のいいくすれで表現し、中心を貫いた真っ直ぐの縦画も堂々としています。一生忘れない揮毫になったと思います。

ぼくの名前は十兵「衛」

福井県 福井市越廼小学校四年 田村十兵衛さん



講評 田村十兵衛さんの作品は、自分の名前の漢字「衛」の古代文字を「書」と「落款」で表現したものです。城の周りを見守り隊がぐるぐる回っていたという意味を調べ、大切なものを守るための武器を見守り隊に持たせるなど独創的な発想が魅力的で、自分も家族を守れるようになってほしいとも伝わってきました。

見て学べる漢字すごろく

福井県 県立高志中学校一年 竹野 遥香さん



講評 竹野遥香さんの作品は「漢字すごろく」です。双六で遊ぶ風に分かりやすく工夫された古代文字に触れ、その漢字がつけられた情景を想像しながら成り立ちを知ることが出来ます。双六しながら漢字についての話題を広げたり、年齢を問わず繰り返し楽しむのが工夫が、使う人によって工夫ができる作品です。

白川先生と学ぶ甲骨文字〜小四版〜

福井県 県立高志中学校一年 富永 真希さん



講評 富永真希さんの作品は、漢字の成り立ちを知ることで漢字の勉強が楽しくなることを伝える「小学四年生に向けた漢字の古代歴史書」です。墨絵や毛筆による揮毫があり、文章は手書きで大切なところは太さを覚えて書くなど、分かりやすく伝える工夫がありました。「歴史書」に似せるために半紙を使用するなど、楽しんで作成しているのが伝わってきました。

